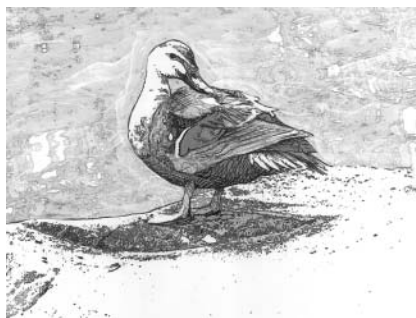


主張

静岡大会から見えてきたこと

宮澤 一 則



令和四年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。この一年が会員の皆様にとって更によい年となりますように、お祈りしております。また、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、平穏な生活が戻ることを願っております。

さて、昨年十月二十日、二十一日と「オンライン形式」により、第七二回全日本中学校長会研究協議会が静岡県浜松市で開催されました。当初の計画では、「現地参加型」でしたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、「現地参加型」と「オンライン形式」を融合した「ハイブリッド型」に変更し、最終的には感染症拡大防止のため「オンライン形式」のみの開催となりました。静岡県中学校長会の皆様には、急遽、オンライン担当部を新設していただくなど、ここに至るまでには、想像を絶するようなご苦労があったと拝察いたします。大会実行委員長の宮崎正様、大会運営委員長の倉島茂見様、静岡県校長会事務局長の田中潤様をはじめ、関係者の皆様の大会に向けた熱い思いが実現に至る大きな要因になったと確信しています。全国から参加していただいた一、〇〇〇人を超える会員の皆様にとって、充実した二日間になったことでしょう。改めて大会関係者の皆様に感謝申し上げます。



開会式では、多くの来賓の方々からご祝辞をいただきましたが、これからの学校教育に対する期待と温かい励ましのお言葉に勇気づけられました。八つの分科会に分かれての研究協議では、各地区から提案された研究協議題をもとに、小グループによる話し合いをブレイクアウトルームを活用して行いました。どのグループでも、熱い協議が行われ、時間が足りないくらいでした。アトラクションでは、浜松市中学校選抜吹奏楽団による演奏が行われました。録画映像で配信しましたが、「思わず、映像を見て指揮をしてしまいました。」など、感謝やお褒めの言葉をチャットにより、リアルタイムでいただくことができました。全国大会で初めてのオンライン開催でしたので、課題もあったと思います。しかし、ブレイクアウトルームやチャットなど、オンラインでなければできないよさを発見することもできたように、多くの成果が得られました。今回の取組により、次年度の北海道（札幌）大会はもちろんですが、今後の全国大会における一つの方向性を示してくれた価値ある大会となりました。今後は、静岡大会をもとに、工夫・改善を重ね、更に充実した全国大会の開催に結び付くと信じています。

新型コロナウイルス感染症や地球の温暖化など、グローバルな視点で取り組むべき課題が数多く存在している現在において、これからの地球のために尽くす人材を育成することが学校教育に課せられた責務と感じています。全日中新教育ビジョンのもとに、ぜひとも、全国の会員の皆様の英知を結集し、これらの課題を乗り越えていきたいと存じます。今年も、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（全日本中学校長会会長・板橋区立中台中学校長）